

第2回 館林市立学校適正規模・適正配置 検討委員会（北・西・南地区共通）

報告資料集

- 報告資料1 (P.1～) …… 館林市立学校適正規模・適正配置検討委員会
設置までの経過
- 報告資料2 (P.3～) …… 第1回検討委員会意見集約
P.3～P.6…北地区
P.7～P.9…西地区
P.10～P.11…南地区
- 報告資料3 (P.12～) …… 令和8年度における多様な児童生徒への支援
体制について

館林市立学校適正規模・適正配置検討委員会設置までの経過

期日	実施内容
令和5年 11月10日	令和5年度第2回総合教育会議（学校規模・配置の適正化に関する基本方針・基本計画について）
令和6年 9月	館林市教育環境に関するアンケート調査を実施
令和7年 2月7日	令和6年度第1回総合教育会議（「館林市教育環境に関するアンケート」結果報告及び今後の計画について）
3月	館林市教育環境に関するアンケート調査報告書の公表
5月28日	館林市教育委員会から館林市立学校適正規模・適正配置審議会へ諮問
5月30日	市議会全員協議会（館林市立学校適正規模・適正配置審議会設置の背景と目的及び方向性を説明）
6月4日	第1回館林市立学校適正規模・適正配置審議会（委員委嘱、会長・副会長選任、諮問、現状説明、意見交換）
7月23日	第2回館林市立学校適正規模・適正配置審議会（学校適正規模・適正配置の基本的な考え方検討）
10月14日	第3回館林市立学校適正規模・適正配置審議会（学校再編に向けたエリア設定の考え方検討）
11月18日	第4回館林市立学校適正規模・適正配置審議会（館林市立学校適正規模・適正配置基本方針（素案）検討）
11月27日	校長会議（審議会の進捗報告）
12月11日	市議会総務文教常任委員会（審議会の進捗報告）
12月11日	区長協議会理事会（審議会の進捗報告）
令和8年 1月20日	第5回館林市立学校適正規模・適正配置審議会（館林市立学校適正規模・適正配置等についての答申（案）検討）
1月28日	館林市立学校適正規模・適正配置審議会から館林市教育委員会へ答申提出
2月2日 ～25日	答申を踏まえた館林市立学校適正規模・適正配置基本方針（案）を作成し、パブリックコメントを実施
3月6日	市議会全員協議会（基本方針（案）について説明）
3月6日	館林市小中学校PTA連合会理事会（基本方針（案）について説明）
3月19日	館林市立学校適正規模・適正配置基本方針の策定

館林市立学校適正規模・適正配置検討委員会設置までの経過

期日	実施内容
4月1日	館林市教育部に学校適正配置推進室を設置
4月3日	校長教頭会議（基本方針説明会の周知及び検討委員会委員の依頼）
4月3日	公立園長会議（基本方針説明会の周知及び検討委員会委員の推薦依頼）
4月8日	区長協議会理事会（基本方針説明会の周知及び検討委員会委員の推薦説明）
4月14日	館林市小中学校PTA連合会役員編成会議（基本方針説明会の周知及び各PTA会長への検討委員会委員の推薦依頼）
4月18日	館林市子ども会育成団体連絡協議会総会（基本方針説明会チラシ配布）
4月20日～ 5月30日	基本方針説明会（市内全11公民館及び文化会館小ホール）
4月22日	区長協議会総会（検討委員会委員の推薦依頼）
4月22日 4月23日	館林市青少年センター補導員事前説明会（基本方針説明会チラシ配布）
4月24日	館林市青少年育成推進員連絡協議会総会（基本方針説明会チラシ配布）
4月27日	私立園長会議（基本方針説明会の周知及び検討委員会委員の推薦依頼）
5月22日	市公式動画チャンネルに基本方針説明動画を公開
6月10日	第1回北地区検討委員会（委員委嘱、基本方針説明、委員長・副委員長選出、基本方針の感想及び立場における現状と課題）
6月10日	第1回西地区検討委員会（委員委嘱、基本方針説明、委員長・副委員長選出、基本方針の感想及び立場における現状と課題）
6月10日	第1回南地区検討委員会（委員委嘱、基本方針説明、委員長・副委員長選出、基本方針の感想及び立場における現状と課題）
6月15日	市議会総務文教常任委員会（基本方針説明会の結果及び検討委員会の設置を報告）

第1回北地区検討委員会意見集約

No.	意見概要
1	【意見】 ・未来を担う子どもたちのために、引き続き様々な立場からの意見を尊重し、理念を具体的な形にしていくための議論を深めていくべきである。
2	【意見】 ・この検討委員会は約一年かけて検討する予定だが、できるだけ早く結果を出してほしい。対等合併、統合についても先送りせず2年以内にモデルを実施してほしい。 ・対等合併、統合とありますが、できるだけ費用をかけないで実施してほしい。特に校名、校歌等は後で検討すれば良いと思う。
3	【意見】 ・規則に28人で組織するとあるが、南こども園の園長と保護者の代表（同一地域）が両方入っていないのに違和感を覚える。地域を代表する意見が反映されない。見直しをすべき。 ・どの位予算が必要か、それぞれのパターンについて、シミュレーションする必要がある、客観的データを提出してほしい。 ・緑町一丁目を二小学区に編入するなど、通学区域の見直しも検討することが重要である。 ・教育の在り方については、別のステージをつくって議論してはどうか。
4	【意見】 ・子どもたちが生き生きと学べるよう、市の学校教育全体の充実や発展に結びつく議論を行うことが重要である。 ・基本方針で提示されている、児童生徒の減少がもたらす「教育上の課題」に切実性があるのか、共通理解を図っていくための協議が必要ではないかと思う。
5	【意見】 ・地域住民による手厚い支援や交流を学校再編後も維持・継承し、地域と学校が一体となって子どもたちを見守り、育てる仕組みを継続することが重要である。
6	【意見】 ・再編による環境変化が不登校につながる懸念があるため、子どもたちの心のケアを徹底すべきである。 ・子どもたちが円滑に適応できるよう、新1年生からの段階的な移行など、具体的な配慮を取り入れる必要がある。
7	【意見】 ・関係者間の合意形成を図るためには、予算や規模などの客観的なデータや根拠を提示しながら進めることが不可欠である。 ・「学校の統合」と「通学区域の見直し」という限られた選択肢の中で、いかに議論を深め、納得感のある結論を導き出すかが課題である。
8	【意見】 ・第二小学校は分散進学 of 課題がある一方で、小規模ならではの地域や保護者からの手厚い愛情で育まれてきたという実績・良さも考慮すべきである。 ・学校再編という難題を進めるにあたっては、保護者や地域住民の十分な納得を得られるよう、丁寧な対話を重ねながら慎重に検討を進める必要がある。

9	【意見】 ・単なる学習・生活環境の整備にとどまらず、子ども同士の「人間関係の構築」という観点を重視して再編を進めるべきである。 ・保護者や地域社会への影響も十分に考慮し、客観的なデータに基づく丁寧な議論を通じて、子どもたちの未来に最適な形を検討する必要がある。
10	【意見】 ・複式学級や教員不足など、小規模校における指導体制の維持が困難になっている現状を踏まえ、再編を検討する必要がある。一方で、小規模な環境を「居場所」として求めてきた児童や保護者の不安は大きいため、その意義を尊重し、不安を払拭するための丁寧な配慮が不可欠である。
11	【意見】 ・小規模校ゆえの教職員負担や保護者の参画困難といった課題がある。一方で、再編に際しては50年続く田植えなど地域とともに築き上げてきた伝統や良さが、再編後にどう引き継がれるのか懸念している。 ・既存の校区をベースとした統合だけでなく、隣接する小学校区間（一小・九小、一小・二小）での通学区域の一部見直しによって、児童数を確保する方法も検討すべきである。 ・中学校への進学が同じ小学校同士の交流も行っていきたい。
12	【意見】 ・市内各校にはそれぞれ異なる特色があり、学校再編にあたっては、各地域の独自性をどう維持・継承していくかが最大の課題である。
13	【意見】 ・子どもの可能性を広げる集団規模の拡大には賛同するが、通学距離増加に伴う安全確保が課題となるため、地域と連携した安全な通学環境の整備を考慮した学校再編を求める。
14	【意見】 ・再編にあたっては、各地域がこれまで子どもたちを育んできた思いや独自の良さを十分に尊重しながら議論を重ねるべきである。 ・「集団での学び」や「友人関係の構築」といった観点を重視し、子どもたちにとって何がより良い環境なのかを慎重に検討していきたい。
15	【意見】 ・教職員の適正配置が可能となる基本方針には賛成するが、保護者の居住地選択に直結するため、再編校は可能な限り早期に決定してほしい。 ・学校再編は学童クラブの運営にも大きく影響するため、他地域の児童が通う際のスクールバスの扱いなど、具体的な運用方法まで見据えた検討を進めてほしい。 【質問】 ・再編のスケジュールについて4～5年とあるが、その基準の認識は、検討が始まったR5年からか、もしくは今年度からなのか、教えてほしい。 ⇒今年度からのスケジュールでの考え方です。
16	【意見】 ・小規模校における社会性やコミュニケーション不足の課題を補う工夫が必要である。 ・再編に際しては、大人が不安をあおるのではなく「より良くなるための前向きな変化」であるというメッセージを子どもたちに示し、明るい未来を共有する姿勢が重要である。

17	【意見】 ・各学校が持つ特色や誇りを尊重し、単なる統合による反発を招かないための配慮が必要である。 ・議論を前に進めるため、候補地やコスト、通学手段といった具体的なシミュレーションを早期に提示し、保護者が納得できる判断材料を提供した上で丁寧に対話を行うべきである。
18	【意見】 ・基本方針と審議会議事録を読んだ個人的理解として、北地区における特定の再編案は最適解の可能性のあるものの、結論ありきではなく、多様な立場の方々と議論を深めながら進めたい。 ・分散進学が不登校の一因となっている実態を踏まえ、まずは「分散進学の解消」という課題のみを取り出し、早急に議論を進める方向性も検討すべきである。 ・南こども園の園長や保護者が委員に入っていないことで地域から不満が生じる懸念があるため、今後組織される実行委員会では委員構成への配慮を要望する。
19	【意見】 ・再編が目指す「平等な教育環境」の定義や具体的な施策を明確にするとともに、「魅力ある学校づくり」においては、子どもたちの声をしっかりと聞き、子どもたちが本当に望む学校の在り方を検討すべきである。 ・大人数の学校を一律に良いとするのではなく、少人数の環境で安心して人間関係を築きたい子どもの存在も考慮し、子ども自身が通う学校を選択できる制度の導入を検討すべきである。 ・本委員会は単なる感想を述べる場ではなく、委員同士が建設的な意見を出し合い、具体的な検討案を作り上げる場として機能させるべきである。
20	【意見】 ・小規模校の良さは理解しつつも、中1ギャップへの対応を考慮し、小学校段階からある程度の集団規模の中で社会性や集団生活を経験させることが必要ではないか。 ・子どもや保護者の意見をしっかりと聞きながら、子どもたちにとって何が最適な環境であるかを慎重に議論していきたい。
21	【意見】 ・現実的な再編案を早期に提示するとともに、越境通学者の扱いを明確にしてほしい。 ・特別支援学級の児童や不登校、不適応の児童に対する配慮を徹底し、再編に向けて少しずつ環境に慣れるための移行期間を設けるべきである。 ・すべてを大規模化するのではなく、小規模校ならではの良さを活かした学校を残すことも検討すべきである。 ・コミュニティ・スクールの機能が低下しないよう、地域住民との関わり方についても検討が必要である。 ・地域住民の理解を得るために、跡地活用など、どのようにいつごろ決めるのかを早めに説明を行うべきでは。
22	【意見】 ・まずは、どこどこを統合もしくはどの地区で分けていくのかを決めるのが先かと思う。 ・子ども達を優先して考えていきたい。統合していく子ども達同士を交流させていくのも、一つの手であると思う。 ・資料を読み、なぜ3地区になったのかなど知ることができた。それと同時に親に情報が下りてきていないことが多いと感じた。

23	【意見】 ・学校再編自体には賛成だが、通学路の安全性や保護者の負担増などの懸念があるため、子どもへの影響や家庭の事情を十分に考慮し、時間をかけて慎重に進めてほしい。
24	【意見】 ・現実的な議論を行うために、予算や人員などを考慮した上で、4～5年後、市として運営可能な学校の数を案として提示してほしい。 ・既存の学校施設について、老朽化や規模による使用可否の調査結果があれば開示し、未調査であれば今後の調査予定を教えてほしい。
25	【意見】 ・環境変化への適応には個人差があることを踏まえ、多様な意見を尊重しながら市内の子どもたちのために議論を深めていきたい。 ・学校再編は、子どもたちが地域を超えて新たな友人に出会える前向きな機会として捉えることができる。
26	【意見】 ・子どもは納得した環境であれば前向きに適応できるため、早期に進学先を決定し、子どもが心構えできる状況をつくることが重要である。 ・新しい環境でも子どもがしっかりと成長できるよう、地域との関わりを大切にしながら後押ししていきたい。
27	【意見】 ・再編が小中同時進行か段階的かなどスケジュールが不明確なため、長期的な視点に立ち、駆け足にならず時間をかけて議論すべきである。 ・学校再編という大きな変化においては、地域や教員の思いも踏まえつつ、最も影響を受ける子どもや保護者を置き去りにしない、当事者最優先の進め方をしてほしい。

第1回西地区検討委員会意見集約

No.	意見概要
1	【意見】 ・ 四小に2年間勤務したことがあるため、四小に対して気になるところがある。
2	【意見】 ・ 子どもの減少を見ると適正規模・適正配置は待ったなし。 ・ 会議の回数が限られているので、適正規模・適正配置で動いていくと思って進めないと、横に話が反れてしまう。
3	【意見】 ・ 市民説明会にも出席したが、基本方針は納得いくものであった。
4	【意見】 ・ 1学級は全員を知れて輪が取れるというメリットがあるが、デメリットもある。小学校2学級、中学校3学級というのは適正かと思う。このまま進めていければと思う。
5	【意見】 ・ パブリックコメントの回答の文面が少し物足りなく感じた。 【質問】 ・ 検討委員会後、市議会に諮るのか位置づけをはっきりしてほしい。 ⇒検討委員会の状況は、市議会へ随時報告します。検討委員会において基本計画（案）を策定し、パブリックコメントを経て、市教育委員会が基本計画を策定します。
6	【意見】 ・ 学級数が少なく、専科教員が少なく、人手が足りない状況で子どもたちにゆとりを持って接することができないと感じている。 ・ 再編についてスピード感を持って進めていきたい。
7	【意見】 ・ 保護者から再編がいつまでに行われるか問合せがあった。 ・ 再編は待ったなしと感じている。
8	【意見】 ・ 本委員会が設置されたことの趣旨について、本校職員及び保護者様へ周知していきたい。また、地域のみなさまにも区長さん方と連携して委員会の趣旨等を広げ、自分事と捉えて一緒に考えていきたい。

9	【意見】 ・校長としての立場と役割を理解し、その目的が達成できるように建設的に前向きに考えていきたい。
10	【意見】 ・基本方針で出たことを軸に、スピード感をもって進めていくことが館林市にとっていいのではないかと考えている。
11	【意見】 ・基本方針は、学校の側に立った考え方がまとまっているとの印象を持った。 ・この会議を限られた回数の中で、適正な方向に向かわせるためには、原案になる部分、骨子があり、より絞られたものに対して意見が言えるような形というのが望ましいかと思う。事務局にある程度お願いしなければいけない部分があると感じている。
12	【意見】 ・再編に反対ではないが、小学校が集約されると、幼保小の連携が取りにくくなるのではと考えている。
13	【意見】 ・園でも子どもの人数が減っている。小学校中学校も人数、それから地域の問題もあると思うが、子どもたちのことを考え、先を見通したスピード感のある会議ができると良い。
14	【意見】 ・子どもたちにはいろいろな友達関係を作って、集団生活を通して社会性とか協調性も育成していかなければならない。 ・5年後10年後の未来の子どもたちのためになることを考えて、スピード感を持って進めていきたい。
15	【意見】 ・西地区の小学校、中学校をそれぞれいくつにするのか、事務局でイメージを作成して提示してもらおうと検討しやすい。
16	【意見】 ・中学校に進学する際には、小学校の友達と一緒に進学したいのと思う。 ・再編はスピード感があるほうが良い。
17	【意見】 ・今春の卒業式と入学式を見ると、卒業式から比べて入学式の児童数がほぼ半分であった。それぐらい少子化が進んでいる状況で、適正規模・適正配置については、人口統計を見れば、適正規模・適正配置が必要という答えは見つかる。
18	【意見】 ・再編する学区が広い。学校が遠くなる子をどのようにカバーしていくのか、そのように考えている保護者は多いと思うのでしっかり検討していきたい。

19	【意見】 ・子どもの数の減少に危機感を覚えた。 ・検討をスピーディーに進めていきたい。
20	【意見】 ・保護者として感じる興味や不安を検討委員会で発表し、後で説明を聞く保護者の方が、基本方針を進めていく必要性を理解できるようにしたい。
21	【意見】 ・分散進学や中1ギャップは保護者の立場として痛感している。未来の子どもたちにはこれらを感じずに成長していってもらえるよう協力していきたい。
22	【意見】 ・スピードも必要だと思うが、この学校には行きたくないと子どもがならないように進めていきたい。
23	【意見】 ・ゴールが会議終了ではなく、検討委員会での意見が生かせるような会議にしていきたい。
24	【意見】 ・子どものためというのを第一前提に、再編をチャンスと思ってやっていきたい。
25	【意見】 ・少子化に伴ってこの検討委員会が開かれることは必要なことだと思う。 ・統合するときに自分の子どもが当事者になり、不安な気持ちも大きいですが、これからの子どもたちのために、子どもや保護者の不安を軽減できるような検討をしていきたい。

第1回南地区検討委員会意見集約

No.	意見概要
1	【意見】 ・地域の違いはあるので、広く意見を交わして進めていきたい。
2	【意見】 ・ある程度の見通し（スケジュール等）を示してほしい。 ・再々編にならないように目標を定めて市がリーダーシップをとって行うべき。 ・学童からの委員選出がないことも勘案するべき。
3	【意見】 ・なるべく早く決めてほしいが、深い討議や意見を集めて進めることが大切。 ・学校の位置を見て居住地を決める人もいるので、都市計画ともリンクして進めてほしい。
4	【意見】 ・①子どもたちの心身のケア、特別な配慮を要する子どもたちへの対応、②通学の安全、③地域とのつながりの維持・発展は慎重な審議が必要。 ・地域とのつながりの維持・発展には地域の声に耳を傾ける必要がある。 ・市の核となる拠点が各地区で必要。
5	【意見】 ・児童の登下校時の安全・安心（熱中症対策も含めて）に配慮してほしい。 ・第一段階として小ゴールが見えていると逆算できるので、考えやすいと思う。
6	【意見】 ・四中が存続できるかも検討対象になる。小学校のことを考えると統合か通学エリアの見直しへの検討も大切。
7	【意見】 ・園もこども園化が進んでいる。子どもがしっかり学べる環境が必要。
8	【意見】 ・統合後、大きな学級にするのは段階的にしてほしい（いきなりだと子どもの不安が広がる）。 ・学童の話も一緒に進めてほしい。 ・都市計画に関連して、建替え等があると人数の変更が生じるので他部署とも連携してほしい。

9	【意見】 ・都市開発の視点も持って検討するのが良い。 ・少子化を止めたいと思っている。このような問題も考えないで済むまちにしたい。
10	【意見】 ・子どもたちの意見等を聞く機会があると良い。 ・保護者へ周知できる方法を探ることが大切。 ・子育て世代が「うちの子は何があっても強く生きていける」と考えられるような何らかの支え合いができると良い。 ・学童も話合いに入っていないと再編した時に子どもたちも選べなくなる。
11	【意見】 ・今の段階で保護者にしっかり周知して、意見をくみ取ってこの会に諮れるようにしてほしい。 ・子育てに魅力的なまちとして力を入れてほしい。

令和8年度における多様な児童生徒への支援体制について

- 不登校を出さない共感的な学校・学級づくりを全小中学校で展開するとともに
多様な児童生徒の居場所づくりを維持継続していく

1 特別な支援を必要とする児童生徒の支援体制

①各校、特別支援学級を設置

特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の特性、教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導と自立に向けた支援を実施。(1学級上限は8人)

②LD・ADHD 等通級指導教室を設置(現在、三小、八小、十小、美園小、多中に設置)

小中学校の通常学級に在籍しながら、学習や生活に困難を抱える児童生徒を対象に、特性に応じた特別な個別指導を実施。本市では自校通級と他校通級による指導形態を実施。

③ことばの指導教室を設置(現在、三小に設置)

ことばについての心配や不安をやわらげ、一人一人の幼児児童が、その子らしく生き生きと生活できるように支援を実施。

2 日本語指導・外国籍児童生徒支援体制

日本語指導が必要な児童生徒を対象に、日本語や教科学習の支援を個別または少人数で行うことで、在籍校での学校生活を円滑に送れるようにする。

①日本語学級を設置(現在、八小、十小、美園小、三中に設置)

②日本語学習プレクラス「つつじみらい教室」を開設

館林市教育研究所において、在籍校へ登校する前の段階で、初期の日本語指導及び学校適応支援を実施。

③館林市ホームページにおいて、日本語学習支援ボランティアを募集

(現在、一小、六小、八小、十小、美園小、三中、四中にて募集)

3 不登校対策及び支援体制

自治体や学校は、文部科学省が示す「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」に基づき、校内体制の強化、教育支援センターや関係機関との連携、ICTを活用した自宅学習支援など、多角的な支援を行っている。

①館林市教育支援センター「ふれあい学級」を設置

学校以外の居場所を求める児童生徒に対して、個別の学習支援や個別相談、進路指導、野外体験活動や親子のふれあいを目的とした親子行事などを実施。今年度より、ふれあい学級から学校の授業にオンラインで参加したり、家庭からふれあい学級の活動に入れるようにしたりするために Wi-Fi 環境を整備。

②校内教育支援センターを設置（全中学校、小学校は曜日によって開設）

不登校児童生徒への支援、居場所や相談場所として活用。心の教室相談員や生徒指導員等配置。オンラインで授業に参加することもできる。

全校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒や保護者の相談支援も実施。

③ROCKET Lab（多様な学びの機会支援事業）の実施

たてばやし向井千秋記念子ども科学館において、不登校児童生徒や学校環境に馴染めずに悩みを抱えている児童生徒を対象に、プラネタリウムや科学実験などの体験的な学習機会を提供し、自己肯定感や自己有用感を高めながら成長できる子どもの育成を目指す。児童生徒同士や保護者同士の交流を図る場としても活用。年間で17回開催。